

平成20年度第2回市史編さん審議会会議録

- 1 日時 平成21年3月19日(木)
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 場所 中央図書館会議室
- 3 出席者等
審議会委員
栗山秀純委員 堀部昭夫委員 青木更吉委員
小川浩委員 下津谷達男委員 鈴木仲秋委員
清藤一順委員 村田一二委員 松本好夫委員
(欠席: 山田友治委員)
事務局
川根博物館長 山口博物館次長 横尾副主査
傍聴者 なし
- 4 議題等
(1) 平成20年度市史編さん事業報告について
(2) 平成21年度市史編さん事業計画について
(3) その他
- 5 議事要旨

(事務局)

ただいまから、平成20年度第2回流山市史編さん審議会を開催いたします。

議事の前に本日の資料確認ですが、既に送付済みで本日もご持参をお願いしていましたが、お持ちでない委員はいらっしゃいませんでしょうか。

それでは、次第に添って進行させていただきます。

ここで、教育長よりご挨拶を申し上げますところですが、本日、議会の都合により欠席されております。皆様にくれぐれもよろしくとの伝言を賜っております。

代わりまして博物館長より挨拶を申し上げます。

(博物館長)

年度末のご多忙な時期にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

本来であれば教育長よりご挨拶申し上げますところですが、本日議会につき代わって私から一言ご挨拶申し上げます。

市史編さん審議会委員の皆様におかれましては日頃から、市政各般にわたりご協力を賜りありがとうございます。

とりわけ博物館事業につきましては、大所、高所からご指導、ご尽力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本日は平成20年度第2回の審議会でございます。

平成20年度の事業報告、平成21年度の事業計画のそれぞれが議題として、提案させて頂いております。

また、継続事業のひとつであります『流山の歴史』刊行事業につきましては経過のご報告もさせて頂きたく予定でございますので、どうぞ忌憚のないご意見を賜り、今後の事業に反映させて頂きたいと考え

ております。

よろしくご審議の程お願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。次第を進行させていただきます。

「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは会長に進行をお願いしたいと存じます。

(会長)

本日は、年度末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。議事進行に先立ちまして、本日の会議につきましては、委員10名のところ9名様のご出席をいただいておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を申し添えます。では、次第により進行させていただきます。議題(1)平成20年度流山市史編さん事業報告について事務局から説明願います。

(事務局)

議題1平成20年度市史編さん事業報告について申し上げます。

(1)市史編さん審議会についてでございますが、今年度は本日を含めて2回の開催とさせていただきます。第1回が平成20年5月20日(火)第2回が本日でございます。次に

(2)市史編集委員会についてでございます。

来年度刊行予定の『流山の歴史』に向けて組織されました委員会でございませうが、1回目が平成20年9月19日(金)に平成20年度第1回市史編集委員会を開催し、提出済の原始・古代原稿及び全体構成について助言をいただきました。2回目が平成21年2月4日(水)に平成20年度第2回市史編集委員会を開催し、前回の指摘を受けて調整した原稿について助言をいただきました。詳細は次の議題でございます。来年度事業計画にて申し上げます。次に

(3)古文書講座についてでございます。

初心者を対象として・平成20年5月11日(日)・平成20年5月25日(日)・平成20年6月8日(日)・平成20年6月22日(日)の4回で延べ144名の参加をいただきました。

講師には成城大学民俗学研究所研究員 榊原史子氏を招き、教材には収蔵しております根本家文書 元治元年「日本国稀成事柄ヲ記ス」を使用いたしました。文字の解読と併せて元治元年1864年当時の世相が流山に及ぼした影響について講義をいただきました。次に

(4)講師派遣事業でございますが、これは市民グループ等の要請に応じて、職員を講師として派遣し、市史編さん活動事業の啓発を図るものです。

・H20.5.24 流山史跡探訪友の会 諏訪神社・成顕寺について講義

・H20.11.9 明治大学校友会 流山旧市街史跡案内

・H20.11.22 流山史跡探訪友の会 東福寺・千仏堂について講義

また、史跡案内の要請について、博物館が関係しますガイドボランティアを紹介することでその団体の活動目的が果たせ、同時にアウトソーシング化が図れているものと思われませう。次に

(5)資料の収集・保管でございますが、市内外旧家の資史料所在調

査の実施及び、館内古文書の解読並びにデータベース化を継続して整理しております。

今年度の新規収集資料としては古文書（流山）116点を寄贈いただき、順次整理をしております。

現在の整理状況でございますが、館内古文書総点数22,546点のうち7,503点の解読を終えています。

以上で平成20年度の事業報告を終えます。

（議長）

只今、事務局より説明のありました平成20年度市史編さん事業報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

（委員）

古文書講座についてですが、上級を望む声はありませんか。

（事務局）

全4回で実施いたしました。文字の解読より、古文書を通して当時の世相を考え、そこから文字解読に興味を抱くような講座を目指しています。レベルアップも課題として心得ております。時間や場所や講師等解決すべき問題が多いのも事実です。

（委員）

毎回違う参加者でしょうか

（事務局）

最初に定員50名で募っていますので、毎回同一の参加者です。

（委員）

回を追う毎に参加者が減少していますね

（事務局）

回を追う毎に増加するような魅力的講座を目指します。

（委員）

新規収集資料は流山のどこの古文書ですか

（事務局）

加岸のお宅からで、寺社関係の古文書が大半でした。

（議長）

継続講座を持っていると何処も同じような問題を抱えているようです。解決すべき問題は多いでしょうがより良い講座を実施していただければと思います。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、次の議題に移ります。議題（2）平成21年度市史編さん事業計画について事務局より説明を願います。

（事務局）

平成21年度市史編さん事業計画についてご説明申し上げます。まず、（1）市史編さん審議会でございますが、年間3回の開催予算計

上をさせていただいております。

次に(2)市史編集委員会でございますが、20年度は2回の開催に留まりましたが、21年度は『流山の歴史』刊行を控えておりますので、年間5回の開催予算を計上して委員の皆様のご協力をいただく予定でございます。

次に(3)古文書講座の実施でございます。今回は多方面で古文書解読普及に力を注いでおられる講師をお願いしたいと考えております。収蔵史料をテキストに使用し、日本史と流山史の時代背景を解説していただくようお願いをしております。

日程は 平成22年2月 7日(日) 13:30~ 図書館会議室

21日(日) "

3月 7日(日) "

21日(日) " で計画しています

講師は民間から地方自治体まで手広く古文書講座を実施されております高尾善希氏にコンタクトがとれまして了解を頂いております。

次に(4)講師派遣事業でございます。

市民グループ等の要請に応じて、史跡めぐり、講座等へ職員を講師として派遣し、市史編さん活動事業の啓発を図ります。こちらは通年事業でございますが、史跡案内については本年度同様ガイドボランティア団体を紹介し、団体で対応できない部分についてはカバーしてまいりたいと考えております。

次に(5)資料の収集・保管等でございます。

市内外旧家の資料所在調査の実施及び、館内古文書の解読並びにデータベース化を継続して実施いたします。データベース化についてはデジタル化を試みております。

過去の審議会でも御意見をいただきました資料の喪失を防ぐために、来年度は古文書の重要性を広く訴えて収集活動を実施したいと考えております。そのための受け皿整備(特に場所)が急務となっております。

次に(6)市史等刊行準備でございます。

ア、『流山の歴史』

流山の歴史について、より平易に記述し一般に親しまれる図書を刊行するもので平成21年度に刊行を予定しております。小川委員を会長とした編集委員会を5回開催してつくりあげる予定でございます。

本年度の編集委員会でいただいた意見の抜粋申し上げます。

- ・ 図書のスタイルについて統一を図る
- ・ 教科書を作るのではなく、広く流山の歴史を伝える目的なので、形式にとらわれず遊び心もあって良い
- ・ 目標として図版類を見開きに1枚使用する
- ・ 通史部分は各章の先頭で簡単に記述し流山中心で記述する
- ・ 原始、古代の歴史を語るには最新情報の遺跡紹介が必要
- ・ ルビ、数字等の表記については最終段階で統一を図る
- ・ コラム欄を設けて市全域を紹介していく
- ・ 章立て、タイトル等もやわらかい表現にする
- ・ 遺跡紹介には写真も挿入し、発掘調査の過程と意義を明確に
- ・ 遺跡コラム(概要)をトップに置き個々の遺跡を紹介する。
- ・ 視覚に訴える内容とする
- ・ 中世の時代分けをすること(鎌倉・室町・戦国)

- ・遺跡紹介は更に簡素化させる。この遺跡で伝えたい事を明確にして焦点を絞って紹介する
- ・年表は『流山のむかし』引用では情報不足。改善が必要。
- ・中世もビジュアル化に務める。中世資料は僅少である旨を予め記す。

等のご意見を踏まえて現在執筆を進めています。次に

イ、『流山市史研究第21号』でございますが、

市史研究は通史編作成の基盤とするために、刊行を続けてきました。通史編は平成17年度に刊行を終え本来の目的を終了しましたが、審議会方針として隔年刊行で残すととなりました。

第20号を平成19年度に刊行後、第21号は平成21年度刊行の予定で、広報、ホームページ掲載等、原稿募集活動に務めたものの、照会が1件あったのみで、投稿の意思表示はございませんでしたが是非執筆投稿をお願いした次第であります。

厳しい財政状況下における内部原稿等に頼った無理な刊行を避けるため、これを1年先送りとした。よって平成22年度刊行に向けて原稿募集活動を継続したいと考えております。

以上で平成21年度事業計画(案)の説明を終えます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

(議長)

只今、事務局より説明のありました平成21年度市史編さん事業計画について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

『流山の歴史』に係っているのですが、皆様の忌憚りの無いご意見をいただければ、委員会に持ち帰って協議の材料としたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

(委員)

『流山の歴史』の装丁ですが、オールカラーでしょうか。

(事務局)

「市史編集委員会」においても協議検討されましたが、理想はオールカラーですが、どうしても予算上一部カラーになると思います。しかし、コート紙を使用する事で白黒図版も映えるかと思えます。

(委員)

版のサイズはどうか。卓上での学習用なのか持ち出してハンドブックとするのか。

(委員)

発行部数とサイズは

(事務局)

予定では1000部B5判です

(委員)

卓上での学習用、持ち出しての研究用の両方に対応できるものを編集委員会で検討したいと考えています。

製本の方法も丈夫な仕様にしたいと考えています。

(委員)

刊行に係る概算を教えてください。

(事務局)

まず、執筆に係る経費でございますが、専門知識を有する臨時職員を任用してこれに当たっています。なお、執筆以外の博物館業務にも対応させています。また、編集委員会議を開催した際の報償費と印刷製本費は約140万円を計上しています。

(鈴木委員)

折角の図書ですから全戸で使用して欲しいですね。特にこれから増える新住民には役立つと思います。

(委員)

私も地方へ行った場合、その土地の歴史要約本があると助かります。価格も安価であればなおさらです。2,000円~となると私でも考えますから。

コラムを多用する方針であるそうですが、民話的事項も入ると楽しいと思います。

(委員)

編集の統一も重要です。価格も1,000円以内が妥当かと思います。

(委員)

専門家が平易に書くのは難しいものです。通常使用している用語を平易にするわけですから。私も苦労した経験があります。

(委員)

私も平易にした図書の編集をした経験がありますが、原稿を書いていたいただいた方との訂正交渉に苦労しました。

(委員)

今回執筆にあたられる方も編集委員の位置づけですから、その辺の調整については容易に進むのではないかと思っています。

また、より多くの方に利用いただきたいものですから、売り切れれば増刷して対応する位置づけの図書としたら良いでしょう。

(委員)

学校へ生徒分は無理としても、学校で数冊ではもったいないと思います。例えば博物館で1セット40冊(クラス人数分)を管理して常時貸し出しするとした有効な活用方法もあると思います。

タイトルも『流山の歴史』で予定されていますがこれで決定ですか。少々固い感じがします。

(事務局)

極力安価で、初版は1,000部。売り切れれば増刷で対応していくべき図書と捉えています。名称については変更も可能です。

(委員)

本日のご意見は編集委員会に持ち帰って検討したいと思います。

(議長)

次に、市史研究についてはどうでしょうか。隔年刊行計画上の、平成21年度刊行予定を先送りにして平成22年度にした場合、次号は当初予定通りの23年度と、2年連続刊行となってしまうのか等問題は大きいようですが。

(事務局)

計画を先送りの平成22年度にするこの場で決めても、その時点で刊行できる程の原稿が有るか確約できない状態です。流動的に整い次第に刊行であれば対応もできると思いますが。

(委員)

埋蔵文化財保護担当職員にも協力を仰ぐと良いのではないのでしょうか。

(委員)

投稿を待つのは厳しい状況になってきています。積極的に依頼して執筆していただく方向に切り替えた方が良いでしょう。

また、博物館で収蔵している民具紹介等の図録化でも良いのではないのでしょうか。未整理民具も多数あるようですから良い機会と思います。

(議長)

これから若い研究者も生まれてくるでしょうから、これを廃刊としてしまうのは惜しい気がします。一時途絶える事で予算確保するのは難しいかとは思いますがこれは事務局が努力していただきたい。

来年度中での刊行は予算計上ありませんから、不可能でしょうけど、来年度の審議会において何か良い提案がされる事をお願いします。

他にご意見はございませんでしょうか。本日は多くの貴重なご意見をありがとうございました。以上で議題の審議を終了します。

その他：事務連絡等

15：30終了